

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン に参加した子どもたちからの 嘆願書

<途上国の子どもたちの現状>

私たちは今年、フィリピンに行き、たくさんの家族ができました。
その子たちから聞いた話は、私たちにとって、とてもショックな内容でした。

2歳や3歳の子どもまでもが毎日家族のために働いているのです!!!

彼らに「自由な時間に何をするのが好き？」と聞くと、

「自由な時間はないよ。でも家族のために働くことは苦ではないよ」と返事が返ってきました。自分たちより年下の子どもたちが人間とは思えない扱いを受けています。同じ人間として平等でないのはおかしいのではないのでしょうか？私たちは日本にいるからこそ彼らの現状を変えていかなければならないと思っています。

今、私たちがこうして勉強や趣味など恵まれている時間をすごしている間に、彼らは家族のために一生懸命働いています。だから勉強が出来ていません。しかし、彼らは心から学びたいという強い意志を持っています。教育が受けられていないために、持っている本来の力が発揮できていません。教育を受けることが出来れば、彼ら自身の力で国を発展させることができると思います。だからこそ、教育を受ける機会を与えなければいけないのです！

<日本からの援助について>

日本という豊かな国は、ODAとして沢山のお金を援助していますが、そのお金の使い方をよりよくして欲しいと思います。

例えば、現地に学校を建てるだけだとすると、私たちが出会った、自分で家族を支えているような子どもたちは学校に通うことが出来ません。なぜならば、授業料や制服にお金がかかってしまうからです。その子たちが学校に来られるようにするにはどうしたらいいでしょうか、麻生大臣！

苦しんでいる人、弱い立場の人に力を貸すのは、同じ人間として、やらないといけないことです。支援というものは、苦しむ人を助けるためのものであり、利益を求めるものではないと私たちは考えます。

<結論>

だから、先進国の代表として、未来を担うすべての子どもが教育をうけられるように援助をしてください。これが私たちやたくさんのメッセージを書いてくださった人たちの願いです!!!

2007年4月26日